東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2010年2月5日

人間と忘れるという欠点

ムスリムの皆様。人間は、本質的に良い存在です。人間から悪事がもたらされることの背景には、本質として持っている良い特徴を仕事や家庭そして実際の生活に反映しないことがあります。なぜ反映できないでしょうか。その良い本質を忘れるからです。自身を忘れ、そして主の御前にいると言うことも忘れ、やがて主を忘れてしまいます。

兄弟姉妹の皆様。人間は、被造物の中で知識を最もよく作りだし、それを用いる存在です。しかしその特徴に反し、被造物の中で最も忘れっぽいものも人間です。人間が忘れるということは、自身以外のものだけを忘れるのではなく、自分の魂も忘れ、自分に与えられた任務も忘れます。

しかし人間は、水のようにアッラーの特徴を顕現させ、その美名を反映させる鏡のような存在です。つまり、知識、力、あわれみ、気前のよさ、知覚、叡智、真理、誠実さ、信頼性、偉大さ、栄誉、差恥心、生命などを人間が顕現する形でで創造されました。

そのために悪魔は万物の主に対して、ある意味で「最も尊い被造物として誤った存在を選んだ。、誤った者にに使命を負わせた。それに適しているのは私だ。人間は計画されていることを実践しない。貴方が候補者を選ぶのを誤ったため、で私はそれに対するサジュダを拒否します」[1]と言いました。天使達は、最初には人間が「地上で悪を行い、血を流す」[2]と語り、心配していることを表明しました。しかし崇高なるアッラーは、『本当に私はあなた方が知らないことを知っている』と仰せられ、心配をとき、やがて天使たちはアーダムにサジュダしました。[3]こうして自身を忘れた人間は、アッラーに与えられた価値や負われた任務を忘れたことになります。

ムスリムの皆様。『あなたがたが何処にいようとも、かれはあなたがたと共にあられる』[4]という聖なる宣言があるにもかかわらず、人間は時々家や学校そして職場でアッラーと共にいること、そしてアッラーの御前にいることを忘れます。このような人の一番の特徴は、災厄に会えば主に祈り、だが、災厄から救われ、普段の生活に戻るとアッラーを忘れることです。[5]人間が忘れることは、生活している社会において道徳的かつ社会的均衡を崩す原因ともなります。さらにその忘れることの結果、慈悲、忠実さ、公正、冷静になること、慈しみ、正確さ、合法とされたものを飲食すること、いたわりといった人間的かつイスラーム的な価値が失われてしまいます。

忘却は、自分に『頸動脈よりも近い主』[6]、創造主を、手にしているあらゆるものにおいて借りのあるお方をも忘れる程度までに広がります。このような忘却は最も恐ろしいことです。忘却がこの段階になると、その人はあらゆる悪事を行う可能性があります。なぜならその人は忘れてはいけないこと全てを忘れたからです。自らの主アッラーを忘れる者は、他のどの善美を思い出すことができるでしょうか。

何時でも何処にいても主の御前にいることを忘れないようにしましょう。そのお方をあらゆる瞬間において思い出させる言葉や振る舞いを大切にし、そうすることによってこの世と来世を整えましょう。

---

[1]参照、第15 章26-33節; 第16章49-50節.

[2]第2章30節.

[3]参照、第2章34節.

[4]第57 章4節.

[5]参照、第39章8節.

[6]第50 章16節.